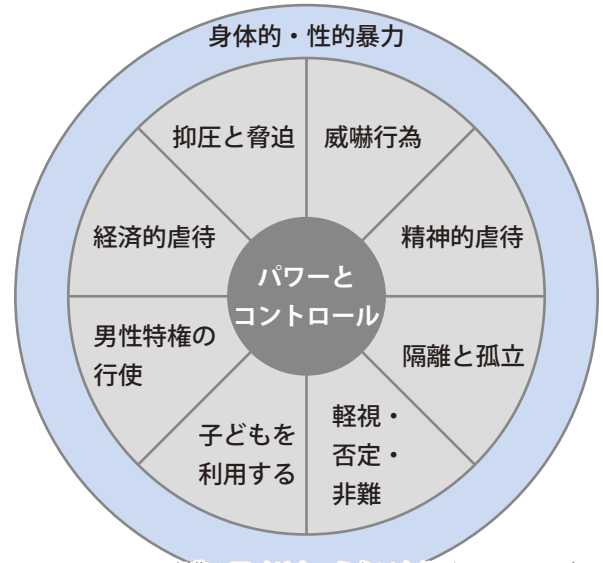
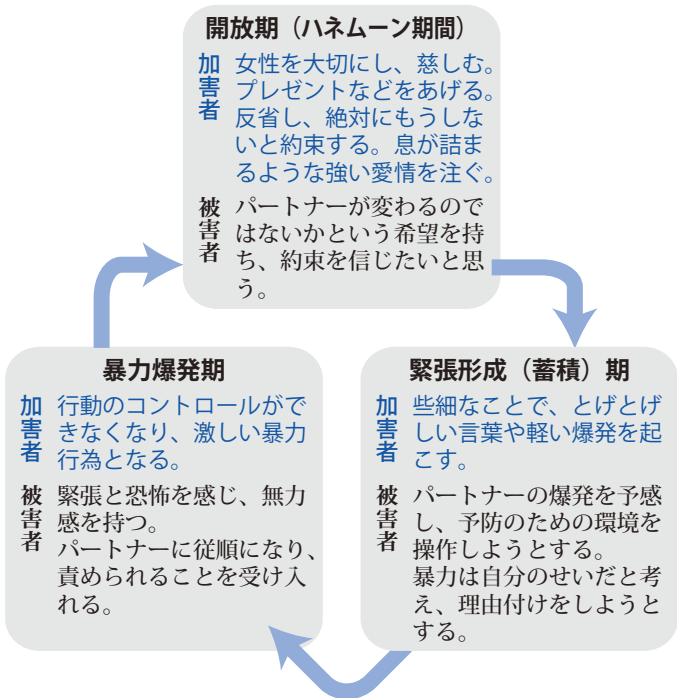


# ドメスティック・バイオレンス (DV) の仕組み

## ▽▽▽ DVのサイクル ▽▽▽

DVには、ある一定のサイクル(周期)があることがほとんどです。3つのステージを繰り返しながら、徐々に暴力のサイクルの速度が増し、頻度が高まり、程度も深刻化していきます。このサイクルがある事で、被害者は加害者から離れられないと思込む場合も少なくありません。



出典：アメリカ・ミネソタ州ドゥールース市 DV介入プロジェクト作成の図を加筆修正

## ▲▲▲ パワーとコントロールの車輪 ▲▲▲

DVは支配と被支配の関係の中で起こります。加害者は、内輪の心理的・経済的な暴力で被害者を抑圧・虐待します。それを支え、維持し、力を与えるのが外輪の身体的・性的な暴力です。この図は、DVの加害者が回る車輪のように、連続的に暴力を繰り返し、様々な方法で被害者を打ちのめし、支配する方法を図式化したものです。

### ■ DVは社会全体の問題です

DV被害者のほとんどは女性です。これは、単に肉体的に男性にかなわないことが多いというだけでなく、社会構造も大きく関わっています。「家内」「奥さん」という言葉にも表れているように、長い間、「主人を立て、家の中を守るよき妻」という役割が女性に求められてきました。

そのため、男性には「女性は男性に従うもの」という男性優位の意識ができ、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な役割分担の中で、夫の「食わせてやっている」、妻の「夫の面倒を見ることは妻の役割」といった主従の関係が作り上げられていったものと考えられます。そういった状況下では、女性には経済的に自立が妨げられ、「私ひとりでは何もできない」という無力感から、被害女性がDVの被害から逃げ出せない要因ともなっています。

それに加えて、家の中の出来事は私的領域のことであり、外部から介入すべきものではないと見られてきました。そして、妻は夫に従うものであり、家庭を守る妻が家庭内のトラブルを外に出すのは恥とされてきたことも、暴力が表沙汰になりにくい状況を作り上げてきました。こういった社会構造が、夫からの暴力を許す環境を作り、被害を潜在化させてきたのです。

このようなことから、DVは夫婦間の個人的な問題としてとらえるのではなく、社会全体の問題として取り組み、

解決していかねばなりません。

### ■ 1人で悩まず、勇気を持ってご相談ください

あなたは、パートナーとの関係の中でDVと気づかずに一人で悩み、自分を責め、相談すらできないと思っていないですか？

DVは、「特別な家庭で起きるもの」「被害者に落ち度があるもの」「加害者は特別な人」ではなく全ての人に起こり得るのです。

暴力の事実を第三者に知ってもらうことは、自分で冷静に判断するためにもとても大切なことです。

市では、毎週水曜日に専門の相談員が、それ以外の日には婦人相談員が相談に応じています。まずは、ご相談ください。

### ◆ 相談機関一覧

相談機関名	電話番号	受付時間
西条市女性児童福祉課 専門相談員によるDV相談	0897-52-1373 (直通)	月～金 8:30～17:15 水 8:30～17:15
西条警察署生活安全課	0897-56-0110	24時間対応
西条西警察署生活安全課	0898-64-0110	24時間対応
愛媛県婦人相談所 (女性夜間ダイヤル)	089-941-3490	月～金 8:30～17:00 月～土 18:00～21:00
愛媛県女性総合センター	089-926-1644	火～日 8:30～16:30
警察本部総合相談	0120-31-9110	24時間対応